

四ツ目川遊砂工

国土交通省
多治見砂防国道事務所

(中津川出張所)

土砂災害から人々の暮らしを守る

この四ツ目川遊砂工は、中津川市街を土砂災害から守るために造られた砂防施設です。中津川市では、昭和7年8月26日に四ツ目川災害が発生し、死傷者26名、被害家屋500戸余りや橋の決壊など多くの被害を出した過去最大の土石流災害を経験した町であります。二度と、このような災害を出さないようにと、この遊砂工の上流で昭和12年から直轄の砂防事業が展開され、平成2年度までに22基の砂防堰堤が造られ、平成15年8月にこの遊砂工が完成しました。

< 四ツ目川災害の氾濫区域と被災状況写真 >



被災した旧国鉄の中津川駅の惨状 写真一①



土砂に埋没した家々 写真一②



四ツ目川遊砂工のはたらき

四ツ目川遊砂工

四ツ目川遊砂工は杉流川と下平次川の合流点付近に位置し、上流域で土石流が発生した場合に、上流の堰堤(22基)で支えきれなかった土石流を受け止める役割を持ちます。

四ツ目川遊砂工は、床固工12基を設置し、周囲を堤防(導流堤)で囲み最下流部に流木止めと砂防堰堤を設置しています。

杉流第4砂防堰堤



直轄砂防60周年記念碑

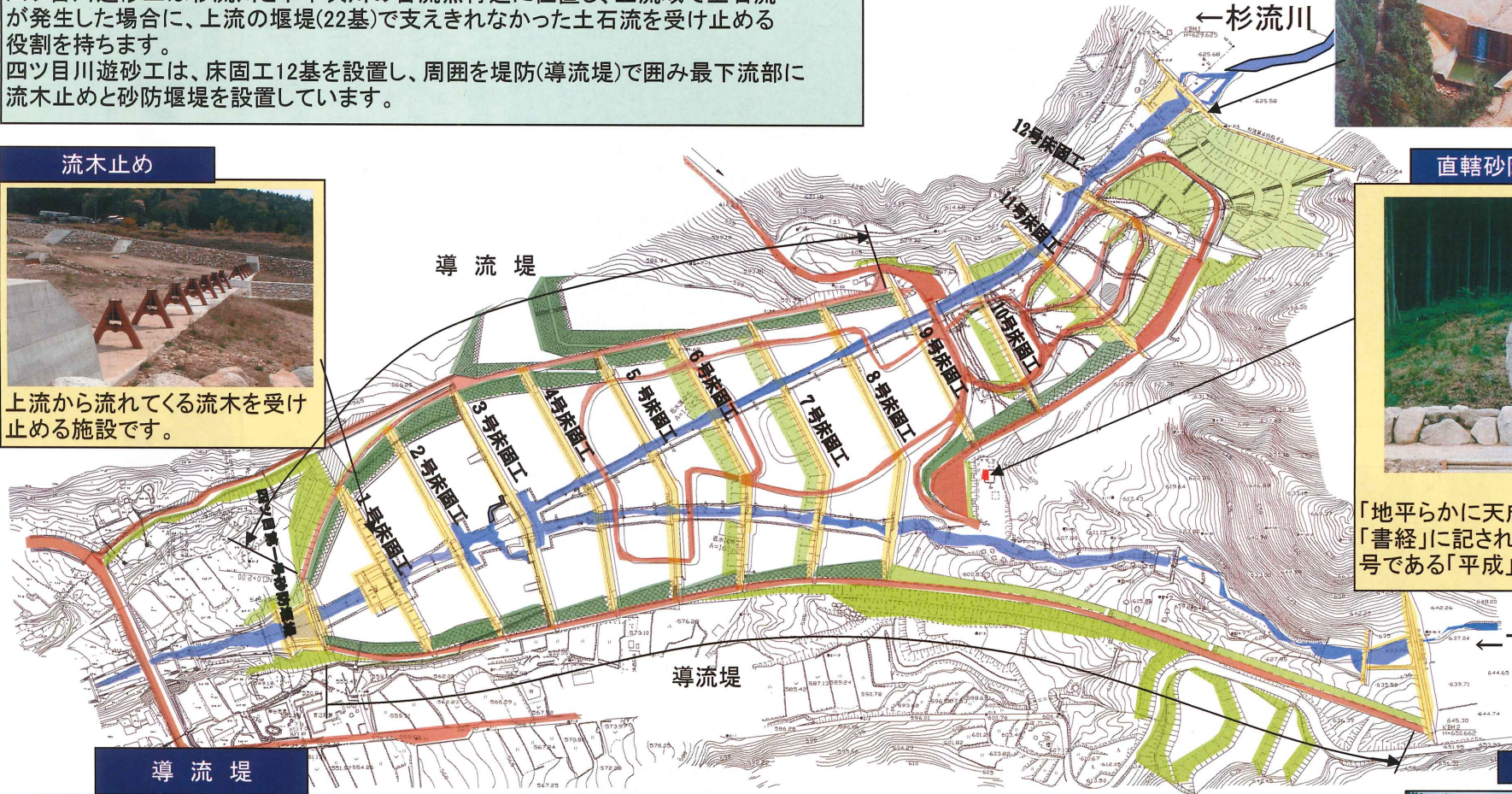


「地平らかに天成る」の文字は中国の古典「書経」に記された言葉で現在の日本の元号である「平成」の語源になっています。

流木止め



上流から流れてくる流木を受け止める施設です。



導流堤



<導流堤>

いわゆる堤防であり、土石流が発生した場合、遊砂工の外に土砂を流出させない働きをもちます。この導流堤は全て現地で発生した巨石を利用して造られたものです。

床固工



<床固工>

河床(川底)の勾配を緩くし土石流の勢いを弱めます。また、川底が削られないようにコンクリートで帯状に造られたものです。